

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



講師の高奎禎彦氏(元チェッカーズメンバー)と共に  
〔若人の集い〕6月30日 大教会神殿にて)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ  
祈る 動く つなぐ

立教176年  
7月号

# 「登殿参列」始まる

## 6月本部月次祭から

6月30日付、天理時報で既報の通り、全教会長を対象とした「登殿参列」が6月26日の本部月次祭から始まり、笠岡大教会からも第一陣として15人が参列した。

大教会では本年6月、11月、12月、平成26年2月、5月、6月、8月、9月、11月の9回(一回15人から20人位)に分けて参加する。

参列者(敬称略)と当日のスケジュールは次の通り。

- 田中隆之(福山) ○小坂静宏(神邊) ○中島誠治(鶴山) ○岡崎和夫(弥高山) ○虫明立生(陽備)
- 宮本泰徳(廣町) ○宮本正子(福廣) ○鳥井利明(福勇) ○竹本和道(福芦) ○藤本イツエ(西村) ○北村保(福春) ○酒本嘉子(鶴南) ○寺下宏一(鶴真) ○虫明好美(鴨方)

午前6時、朝食。7時、記念撮影(修練場・おつとめ衣にて)。7時15分、マイクロバスにて詰所出発。7時45分、受付・御用場にて表統領、あるいは内統領よりあいさつを受ける。午後1時10分、終了。1時30分ごろ詰所到着・解散。

# 年祭に向け確かな歩み

鶴山分教会 中島 誠 治

6月26日に登殿参列をさせて頂いた。朝から本降りであらい日になったもんだ。と思ったが此れも何かの巡り合わせ。照るも良し、降るも良し。早くにおつとめ衣に着替えて修練室で記念撮影

後、マイクロバスに乗り合わせていざ出発。雨が降っても車内は勇んだ気持ちで賑やかに云いながら本部へ。私は前回と同じく部内教会長さんを車椅子に乗せての参列。9時前には所定の北礼拝場に到着。見回すと案外若い教会長さんが多い。頭が白いかか光っている方は少ない。お道も若返りしているのかなあ。自分が年を取っていることも忘れてそう思う。祭文奏上に続いかぐらぶとめ、前半、後半と地歌を歌いながらつとめさせて頂いた。増野先生の講話もいつもよりはつきりと頭の中に沁み込んだ。ありがとうございます。おぢばは誰でも心を素直にさせてくれる。ありがたい。



不思議と、雨が降って袴が濡れようが、足袋が濡れようが参列出来た有難さで全く苦にならない。最後に教祖の御前で表統領上田嘉太郎先生がお話しされた言葉をしっかりと肝に命じて三年間歩みたい。

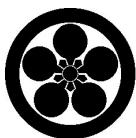
『皆さんは、それぞれの教会の会長さんであり、ようぼくの中のようにうぼくである。龍頭であります。信者さん方の先頭を切って進んでもらいたい』。頑張ります。二度とない教祖130年祭に向けて。

<実行目標>人のたすかりを願ひましよう

おたすけ・お願いカード 集計：9,008枚

平成25年5月21日～6月20日

平成25年累計：27,080枚



## 登殿参列と登殿参拝

川島郷分教会 香取 雅人

私は、会長になってから今回で、三回目の登殿参列をさせていただいた。

正確には過去2回の登殿参拝と初めての登殿参列である。「参拝じゃろうが、参列じゃろうが、やることは一緒じゃ」とおっしゃる方もおられたし、もちろん自教会の代表として襟を正して参列させて頂いたが、「なぜ今回は登殿参列なのだろうか」と、ずっと気にかかっていた。

こんな気持ちで臨んだわが生涯で初めての「登殿参列」の日は朝から雨、北大路乗降場で送迎のマイクロバスから降りたときには、かなりの強さで降っていた。バスから降りてすぐ目に入ったのは黒い腰巻姿のおじさんたちだった。「ありゃあ、何じゃ？」と不審に思ったが、実は用意周到にも袴用の雨具を着用されていた大都会の大教会の先生方だった。だが、そのような物を装着していない私たちは、裸足で下駄をつっかけ、おつとめ衣の袴の裾をからげて集合場所へと向かったのである。

登殿参列者には専用の受付がある。おさづけを戴くときに呼び出しを受ける第3御用場北側にある建物がそうである。そこで登殿参列券を渡し、下駄を脱いで西回廊北詰へと進む。回廊の手前で

足袋を履き、2列に並んで待っていると、今回大教会から参列した15人の教会長の内、私と上級の会長さんとY分教会のO先生の3人だけが別の班に編入された。「どうせ行く所は一緒だから、どの班でもええわ」と簡単に考えていたが、このことがその後、私たち3人に不運を招くことになるうとは、誰として知る由もなかった。

第一次の登殿参列である今回は、約1000人の教会長が参列することになっている。この会長さんたちが、いつもは立ち入ることができない境界の内側に着座し、月次祭を参拝させていただけなのである。私たちは、厳かな気持ちで境界内に入り、30人ずつの班ごとに指定された場所へ案内された。

笠岡の他の12人は幸運にも最前列に着座した。ところが、なんとということであろうか、私たち3人には最後列に座る運命が待ち構えていたのである。

着座して視界に入るのは、他所の大教会の先生方の輝く後頭部ばかり。「あくあ」と落胆しかけたが、「ここに座らせていただけるだけでもありがたいのだ」と気を取り直し、真剣にみかぐらうたを唱和させていただいた。

しかし、このことが後日嬉しい結果を招くとは、誰として知る由もなかった。それは、6月30日付の天理時報の1面をご覧くださいればよくお分かり

いただけるのだが、登殿参列を伝える大きな写真に上級の会長さんと私の二人が(O先生はお気の毒にも前頭部のみだった)が)写り、とても良い記念となったのである。

さて、「かぐら・てをどり」が終わり、増野正俊本部員の神殿講話ののち、真柱様、つとめ人衆、直属教会長の方々の後に続いて教祖殿へと移動した。

私たちは礼拝が終わるまで東回廊で待機し、その後、御用場で表統領先生のご挨拶を頂戴した。このご挨拶の中で、私は参列と参拝の違いを解釈するヒントをいただいたのである。

つまり「登殿参拝は年祭後、その年内に行われる。したがって御礼参拝の意味合いが強い。これに対して登殿参列は年祭活動のさ中に行われ、それぞれがおたすけの決意を新たにし、勇みを頂く参列である」と、このように考えたのである。正しいかどうかは分からない。しかし、自分自身が納得できたので、これでいいのだ。



# 親交を深め

## おたすけの実践を誓い合う

### 第1回若人の集い開催

大教会年祭活動推進委員会(田中隆之委員長)は、6月30日、大教会で「第1回若人の集い」を開催、遠近を問わず156人(受付数。参加者101名・スタッフ56人)が参加した。

これは教祖130年祭へ向けて、主に20歳から40歳ぐらいまでの働き盛りの年齢層を対象に、仕事をしながらでも信仰を深め、一人一人が、何か実践できるようなきっかけを作ってもらおうと開かれたもの。

今回は、講話とグループタイムが中心。講話の講師は、元チェッカーズのメンバー・高杢禎彦氏(平安大教会所属・ようぼく)。

同氏は講話の中で、チェッカーズ時代の自身の様子に触れた上で、布教所長子弟であった恭子夫人との出会いなどを振り返った。そして、周りの人、夫人、自分自身に見せられた身上などを通して、信仰心が芽生えていく過程を様々なエピソードを交えて話した。

その後、参加者を13班に分けて行われたグループタイム①では、司会役のスタッフを中心に講話



講師の高杢氏

を聴いての感想が話し合われた。

昼食は婦人会によるバイキング形式の料理が振舞われ、各班の雰囲気も和やかな一時となった。託児も行われ51人のチビっ子が集う中、楽しく過ごした。

昼食後のグループタイム②では、今後、日常生活の中でどんな信仰実践ができるかを、高杢氏の講話や教内の刊行物、大教会の成人目標を参考に、



ユーモアを交えた講演に参加者も笑顔に

参加者それぞれが目標を立てた。

受講者は1日を通して、同じ笠岡に繋がる若いよふぼく同志の親交を深め、また、日常生活の中で自分にできるおたすけを実践していく事を誓い合った。

#### ◎参加者の声

「若人の集い」は101人の参加者で行われた。行



それぞれの立場からいろんな意見が出された

事終了後、アンケートの提出があり、その提出数は66枚となった。  
第一問の講話については「あまり参考にならなかった」を1、「とても参考になった」を5とする5段階の問い合わせには、4の数字が17人、5の数字が47人となり、提出者の97%が感銘を受けた等、下記の様な感想を記した——分かりやすい



とにかくうまい！ 婦人会の皆さんありがとうございます

／話しに引き込まれた／根気よく話しすることの大切さ／また機会があれば／等々。  
第2問のグループタイムについては「充実度」について4の数字が16人、5の数字が38人となり提出者のやはり82%が下記の様な高評価となった——疑問に思っていたことが解決／濃い内容／がらぶろの気持ちが芽生えた／等々。

## 若人の集いに参加して

川島郷分教会 香取千帆

私は、6月26日に留学中の北京から帰ったばかりで、久しぶりに聞く日本語の講話はとても新鮮でした。チェックカードは解散してから長い時間が経っているのですが、私たちの世代にはあまり馴染みがありませんでした。講師の高奎先生は紅白歌合戦に何回も出られていて凄いなあと感じました。そんな有名な方が私たちの目の前で、しかもお道の話をされているのが、何か不思議な感じがしました。先生のお話の中で一番はつとさせられたのは、「生まれたときから天理教を信仰している人は、その有難さに気づいて欲しい」という意味の言葉を出されたときです。私は教会で生まれ育ちましたが、今までにそんなことをあまり考えたことがありませんでした。でも今は、中国に住んでいて外から日本を見ています。そのとき、日本のいい所や悪い所がとても良く見えるときがあります。ずっと中にいると見えにくいことも視点を変えてみると、くつきりと浮き上がって見える場合があるのかもしれない。もう1年間、中国に滞在する予定ですが、友人を多く作りしっかりと勉強をして、少しでも国際貢献のできる人になりたいと願っています。そして、たとえ小さなことでもいいから自分でできるひのきしんやおたすけをさせていただきたいと思えます。

おやさとふしん

青年会ひのきしん隊

第795隊に参加して

青年会

青年会笠岡分会では、六月におやさとふしん青年会ひのきしん隊に8人で入隊。

今年は全く雨の降らない空梅雨だったが、ひのきしん隊にとっては毎日がひのきしん日和の快晴の御守護！と24日間伏せ込みに充実した汗を流した。ひのきしんの内容はこどもおぢばがえりに向けての、テント設置や看板製作、蛇谷山での木出し、また130年祭に向けてのパイプ椅子組立など。作業に慣れない者もいたが、声を掛け合いひのきしんに勇んで取り組む姿が見られた。

その他、修練や月次祭まなびや感話大会、にをいがけ、休養日には詰所の給水タンク清掃など。感話大会では笠岡から弁士が登場、ケニア布教の話や奥さん自慢！と自身の真つ直ぐな信仰を語り、後にケニアさんと呼ばれ、全隊に海外布教の熱を広めた。にをいがけでは桜井大教会を拠点に神名流しや路傍講演、戸別訪問へと。初入隊者の一人は初にをいがけながら、先輩の「出来なかったら、やらなくていいよ」という優しい言葉とは裏腹の強烈な圧力に屈し初めての路傍講演をやり

遂げた。また夕食が早いいためほぼ毎日夜食を作るのだが、夜食が楽しみな一人は一ヶ月で3.5キロ増の大きな御守護を頂戴し、その腹鼓の音はおぢばに鳴り響き、犬は遠吠えを返し、そのいびきは耳栓売り切れの緊急事態を招いた。そしてそして親善大ソフトボール大会では奇跡の準優勝！名譽の負傷あり(ただの運動不足なのでご安心を)で多いに盛り上がった！毎日が喜びの隊期の中でも二人が初席を運んだのは大きな喜びであった。

入隊者達は百母屋を宿舎に親神様の御守護、教祖のお導き、青年会長様の親心のもと、不思議な出会いの御守護、喜びと宝を頂き、大きな事故はもちろんのこと、一人のひのきしん欠席の身上者も出る事なくお連れ通りいただいた。来年はひのきしん隊60周年！なんとか心定めである14名以上の入隊を達成し、年祭に沸き立つおぢばに、笠岡に繋がる青年会員と共に伏せ込み、たすけの渦を巻き起こしたい！

**入隊者**：中村剛史(久松)、杉原善朗(明石市)、豊田宏哉(府中市)、中村元彦(照陽)、三代幸徳(米府)、山口晃治(芳井)、福元賢一(直轄)、岡崎啓司(直轄) 以上8人。

第795隊は15分会102名、笠岡分会は北分会11人と合同の第4班となった。

(副委員長 杉原善朗)





熱心に受講される

育成部(吉岡壽部長)では6月21日、大教会6月月次祭後、会議室で「よふぼく勉強会」を開催、約22人が参加した。今回のテーマは「理立て」。講師の笹尾正治先生は、「理立て」について様々な「理を立てる」ことの角目を、永い経験から懇切に講話をされました。

**よふぼく勉強会開催**

**テーマは「理立て」**

6月月次祭後

**育 成 部**

朝7時30分からトラックのテント・冷凍庫などの積荷を下ろし、鋼管や看板を倉庫から準備した後、玄関前と詰所2階の看板設置、二組に分かれての作業を始めた。玄関前では鋼管を組むレベル

意義に終講した。勉強会に先立ち月次祭終了後、神殿で同部おたすけ掛員より一人におさづけが取り次がれた。今回の勉強会は7月月次祭後、「おとまり会」について行われます。

前日の大教会月次祭後、雨の中模擬店に必要な資材を中心にトラックへの積み込みを行い、ワゴン車との2台で詰所に向かった。当日は曇り空で大変過ごし易いひのきしん日和となり、詰所勤務者・教養掛の先生などの手伝いも頂き10人前後でのひのきしんとなった。また、毎年お手伝い下さるノースアメリカの佐藤さんの真実あるひのきしんの姿勢には、感謝の気持ち一杯で頭の下がる思いである。

こどもおちばがえり実行委員会ひのきしん部では、6月22日に笠岡詰所で看板取付けひのきしんを行った。

**こどもおちばがえり**

**看板取付け枠組み作業**

2階では、それぞれにインパクトを片手に作業を進め、休憩時には教養掛の先生の思わぬ差し入れに皆勇み心もひとしおで、昼前には全ての作業を終え、風呂の準備に感謝しながら昼食をいただいで詰所を出発した。



看板を楽しみに!

(水平)を取るのに佐藤さんが指揮を取って下さり、本業である笠尋の会長さんが手際よく段取りを先導して下さいました。

2階では、それぞれにインパクトを片手に作業を進め、休憩時には教養掛の先生の思わぬ差し入れに皆勇み心もひとしおで、昼前には全ての作業を終え、風呂の準備に感謝しながら昼食をいただいで詰所を出発した。



第4回) すぐに山盛りになる一輪車

# 有志ひのきしん隊 常時実施

青年会

## ◆第四回有志ひのきしん隊

5月16日、4回目となる有志ひのきしん隊が、



第5回) 山の男たちの勇姿

## ◆第五回有志ひのきしん隊

大教会にて活動。墓地下の草刈りを4人で行った。  
6月28日、5回目となる有志ひのきしん隊が、  
甲井分教会(広島県世羅郡)に出動し、8人が参加した。  
教会の裏山の木を整理し、束ねてトラックに積み込む作業を夕方まで行った。

# 温故知新

いきいきエピソード 26

## 三代会長の信仰心の発露

三代会長の事歴の中「おふでさき御話」について触れてみたい。編集・出版に携わらせて頂いたのは教祖九十年祭の三年程前の事であった。当時私は道友社に勤務していて、毎月、日を決めて講社祭をさせて頂いていた。若木町の十三号館に住まいしていた。あるとき、来てくれた父親が、「忙しいやろけど、本にして欲しい。」と言って、長年大教会で毎月の如く話して来たおふでさきの講話の事を口にした。「岸本と相談してくれ」との事であった。出版は昭和五十年十月二十日となっている。昭和五十一年一月二十六日から二月十八日が教祖九十年祭で、その間私は日刊天理時報の編集に携らせて頂いた。そして三月末で道友社を退社して、大教会へ住み込ませて頂いて、四月から布教の家・広島寮へ出させて



頂いた。三月二十一日に准承事を拝命している  
ので、私の環境がガラリと変わったその直前に、  
このおふでさき御話の編集出版に携わったとい  
う事になる。昭和五十一年二月二十一日付のか  
さおかに私の「編集・出版に携わって」という  
小文と大教会役員の岡崎真澄先生の書評が載っ  
ている。

私の文章・四百字詰原稿用紙で九百四十二枚  
の原稿を何とか本にして欲しいと御命頂いたの  
は、三年程前であったように思う。その間には、  
種々経緯があったが、岸本敏明氏と相談の上、  
重複を避けるためにある所を削り、また字句の  
訂正を行い、天理時報社に依頼したのが、それ  
から半年ほど経ってからの事であった。手軽さ  
と利便さ、そしてできるだけお年寄りの方にも  
読みやすいようにと活字を大きくする事を心掛  
けるなどして、出来上がった形が本書である。  
校正は五校まで、岸本氏とは三校まで、あと二  
校は岸本氏の海外巡教があったために、小生だ  
けで見させて頂いた。出来上がって更に読み返  
してみると、まだあちこちに校正漏れの箇所が  
あり、汗顔に至りである。(道友社で徹底して  
校正を叩き込まれていたの、申し訳ないとい

う思いから、このように書いたのだと思う。)

夏の暑い時、日中から夜は道友社の勤務があ  
るので、午前五時から一時間、毎朝校正を読ま  
せて頂いたのも、今では楽しい思い出である。  
苦労の中に楽しみありというような諺があるが  
〔苦の中に楽あり〕をもじったのであるうと思  
う)、この本を通して最も勉強させて頂いたの  
は、小生ではないかと思わせて頂いている。

教理勉強は、なかなか簡単にはいかないもの  
であるが、この本を通して、できるだけおふで  
さきをはじめとする原典に親しませて頂く事が  
老会長様の御親心にお応えする道であると思わ  
せて頂く。最後に録音テープを丹念に原稿用紙  
に起こして下さった方々に、心から御礼申し上  
げる次第である。

岡崎真澄先生の書評..(こちらの方は私の文  
章に比べて重厚で、さすが永年大阪の夜間高校  
で教鞭をとって居られた方だなど、今改めて読  
ませて頂いての感想である。皆さんはどのよう  
に思われているのか分からないが、三代会長の  
この本は、おふでさきについての、類を見ない  
解説書で、岡崎先生は、その事に発刊の時点で  
気づいておられたという事である。それでは書

評を読ませて頂く。)

現代国家は法治主義・民主主義の完成目指し  
て日夜粒々辛苦の努力を続けているが、その根  
底には天賦人權説が存在し、自由・平等の合言  
葉のもとに福祉国家への道を歩いている。国家  
統治の基本法としての憲法・民法・刑法などの概  
説書は沢山あるが、逐条解説書は憲法(103条)、  
刑法(264条)にはあっても、民法のような膨大な  
ものにはあまり見受けられない。

それと同じように道の原典の中でも、みかぐ  
らうたには逐条解説書も多数あるが、おさしづ  
には重要なもののみ解説書が出版されている  
にすぎない。

おふでさきには従来本部から刊行されていた  
簡単な解説書、上田嘉成先生の「おふでさき講  
義」に続いて老会長様の「おふでさき御話」が  
教祖九十年祭を目前にした昭和五十年の秋の大  
祭を期して発刊された事は、笠岡の道に繋がる  
私達の喜びは勿論の事、道全体としてもその意  
義は素晴らしいものと思う。しかも、その内容  
は書名に象徴されるように、分かりやすく噛ん  
で含めるように書いてあるので、私も一気に読  
破する事ができた。

行を追うにつれ、次々と私の知らない知識や内容が走馬燈のように現れてくるので、道の知識が豊富になったという読後感と共に著者の信仰の偉大性が、ひしひしと胸を打つのを覚えた。いままで素読的に読んでいたのが、一語一語噛みしめて味読するようになった気がする。

著者は巻頭に「おふでさきはその当時の事を仰せ下さった歌もあるし、また将来にわたって、親神様の思召を聞かせて下さっている歌もあります。いづれにしても我々人類が未来永劫に践み行うべき道をお示し下されているものです。」とお述べて、読者に重要な指針を与えて下さっている。

本書の成立は自序にもあるように、昭和二十一年八月から同四十七年頃まで、乙種講習会・教会長資格検定講習会の講師として勤められた間に、二代真柱様のおふでさき研究で教示された事や、著者の悟られた点や、お歌の御思召より各自が心得として頂かねばならん事柄などを永年に亘ってまとめられ、笠岡大教会で号を追ってお話し下され、それを更に分かりやすく本にして頂いたと聞いているが、著者の数十年に亘る信仰の総決算がこの書に現れていると

いつても過言ではないであろう。

全巻を通じて道の後輩に対し、教祖が直筆をもつて教示された親心理解の手引書としての深い愛情が秘められている事を痛感する。わたし達はこの理の親の大きな親心に応えるためにも、今後原典に親しみ、その研究を盛んにしななくてはとの思いに駆られ、大阪の笠岡会でも、早速おふでさき研究を今後の課題とした次第である。

次に内容について紹介すると、私達の身近な事例で説いて下さっており、教語解説も、丁寧で行き届いている事に感銘を受けた。

例えば、「一れつにあしきというものはないが、ちよつとでもほこりがついたら、あしきのように思うのである。ちよつと透明のガラスが汚れて、向こうが見えにくくなってきたようなものです。ガラスが悪いのではなくて、ほこりがついていてからです。中まで汚ないのではなくて、ただほこりをつけたままにしておくのが悪いのであると仰せになつて居るのです。」(四一頁〜四二頁)

とか、あるいは、「往還道とは広い道、誰でも通れる道の意で

す。すなわち今日で言えば、自動車・自転車・牛車・馬車それに歩行者、どんな人でも通れる道の意です。したがって、往還道とはいかな悩みや苦しみを持つている人も不仕合わせな人もたすける事ができる道、いわゆるたすけ一条の大道の事です」(五五ページ)

などの解説はその適例であり、随所に好例が散見される。

また文中幾多迫力を持つて迫ってくる箇所がある。

例えば「親神様のお考えは決して後先になりません。順序間違いなくさるのです。それが天理です。」(二六七ページ)と天理の偉大性を顕示されたり、「いくら雨が降っていても、そのおつとめの間だけは上がりません。おつとめが終わって、ちゃんと仕舞いが出て、その後雨が降ってくる。雨がおつとめ中に降ったならば、御供に雨があたってくるのですが、おつとめの間は雨が降らないので、あたりません。これは天理を戴かれるのです」(三五六・三五七ページ)という奇蹟を教示されている箇所などは、素晴らしいの一語に尽き、感激の情を禁じ得なかつた。

このよふをはじめた神のゆう事に  
 せんに一つもちがう事なし (1-43)  
 と仰せ下さっているように親神様が原典を  
 通じてお示し下さった教えには絶対狂いが  
 ないのである。

私達は原典研究を深めることにより、神  
 意がどこにあるかを悟ることができる。現  
 在のように思想混乱の世相においては教祖  
 の教えは一段と光彩を放って世人を導いて  
 下さる。その意味からもこの度の本書の刊  
 行は、全く有り難いことであり、老会長様  
 のご愛情とご熱意に感謝しながら、教祖九  
 十年祭を迎えた幸福感に浸っている次第で  
 ある。

以上である。私は今、岡崎先生のこの文  
 章を読み返して、先生の信仰心の先鋭さを  
 知ると共に、この「おふでさき御話」がよ  
 くもあの時点で出版され得たと感慨を深く  
 した。考えてみれば、学者の論文、本部公  
 刊の解説書ならいざ知らず、一信仰者の手  
 になるおふでさき全巻の信仰的解説書はな  
 いのである。

(この項続く)  
 (前史料部長)

## <庶務部>

### ○「ようぼくの集い」の名簿訂正について

- ・回収された名簿上で「訂正」・「連絡不要」・「出直」・「不明」の処理がなされていた教人・よふぼくについては、本部へ名簿を返却する時点で、同時に「訂正」・「連絡不可」・「出直」・「住所不確実」の名簿処理を行います。
- ・「よふぼく」の笠岡大教会内での所属変更につきましても上記と同様に扱います。
- ・「教人」の笠岡大教会内での所属変更、「教人」・「よふぼく」の他系統から笠岡部内へ、または、笠岡部内から他系統への所属変更につきましては、別途、正式な届・願が必要になりますので、庶務部で用紙を受け取り、必要事項を記入、提出してください。

## <信者部>

### ○大教会での宿泊・食事について

- ・祭典前日以外に大教会で宿泊される場合、祭典前日・当日以外に食事をされる場合は、部屋割り・準備等の都合がありますので、予め、神事所へご連絡ください。

## <婦人会>

### ○「第27回 女子青年大会」について

日時 11月4日(月・祝)・・・3年に1度開催。

午前8時30分 受付開始

式典(中庭)

女子青年 支部の集い(笠岡詰所)

前日3日

午後5時30分 おぢばに帰った女子青年が揃って夕づとめに参拝  
 花広場

場所 最近では地方開催でしたが、久しぶりに本部で開催。

- ・女子青年の付き添いということだけではなく、婦人会としても一緒に参拝をさせていただきます。

**第71回 笠岡大教会英語講習会**

日時: 平成25年8月7日(水)～8日(木) (1泊2日)  
 場所: 笠岡大教会

8月7日 AM 9:00 集合  
 8月8日 PM 4:00 解散

内容: それぞれの目標別のクラス分け  
 ウォークラリー・肝だめし・ゲストによる講話  
 宿題をする時間、バイキングやテーブルマナー  
 スキット

対象: 小学5年生以上の学生～80才まで

参加費: 1500円  
 (小4以下と、81才以上の方は相談して下さいね～♡)

持ってくる物: 宿泊セット・筆記用具・タオル・辞書(英和・和英)  
 宿題、帽子、傘(いる人のみ)

×切: 平成25年7月31日まで

申し込み先: 笠岡大教会海外部  
 (0865-66-1311)

**・原・稿・募・集・**

**内 容**

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

**字 数**

1000字前後(800字～1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

**寄稿先**

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。



郵便: 〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX: 0865-66-1314

メール: [tenkasa@yahoo.co.jp](mailto:tenkasa@yahoo.co.jp)

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



**日時： 8月15日(木)16日(金)**

**15日 17時受付開始**

**16日 12時30分(昼食後)解散**

**対象： 高校生層男子**

**場所： 笠岡大教会**

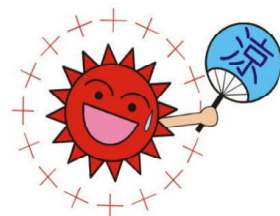
**内容： 大教会長様お話 ひのきしん  
ゲームラリー大会 バーベキュー 他**

**※参加費 無料**

**※申込み 中村剛史副委員長(090-6845-5926)まで**

**学生生徒修養会高校の部に参加した方は、そのままご参加ください**

みんな集まれ!!



# サマーキャンプ



**大募集!!**

天理教少年会笠岡団

**8月22日(木)~24日(土)2泊3日**

- ☆集合 8月22日 午前7時30分
- ☆場所 さんさいの里
- ☆内容 クラフト、野外ゲーム、  
キャンプファイヤー、など
- ☆持参品 弁当1食(22日昼食分)、保険証のコピー、  
着替え、長袖シャツ、長ズボン、  
靴下(足首が隠れるもの)、洗面具、帽子、  
水筒、軍手、懐中電灯、雨具、筆記用具  
※サンダル不可
- ☆対象 少年会員(小3~中3)  
高校生以上は育成係
- ☆定員 先着30名
- ☆参加御供 3,000円、米3合  
果物缶詰1缶
- ☆申し込み 各教会又は大教会
- ☆必 切 8月15日





# 教会別人づくり一覧表

(立教176年1月1日より  
立教176年6月30日まで)

名称	初席	授訓	三日講習	修養科	教員講習	教員登録	会長格定	名称	初席	授訓	三日講習	修養科	教員講習	教員登録	会長格定	名称	初席	授訓	三日講習	修養科	教員講習	教員登録	会長格定
笠福高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠	3	3						福春								新輝							
岡山屋邊根松山山備耶浦明と山井照岡悠江陽濃邑部市中城部中家木陽原中昭郷備晴	7	1						福中	1							豊山	1	1					
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠	1	1						富土								津川							
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								東山								山川							
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								南順								ノ古							
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠	2							節備輝								浦北東							
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								坪八深笠芦安芦三芦芦恵陽御香真仲稻稻富司惠水児	1			1			村中橋治福津福	4	2	1					
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠			1					加茂陽實野華金條倉瀬士讚港山島丸	2			1	1		江大品久久呉	2	1						
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								地華金條倉瀬士讚港山島丸							鶴島	1	1			2			
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								出瑞海錦米弓西米伯照松樺	1						川島								
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								雲川							南眞郷方備華原								
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								潮洋							藤府舎嶽畠和須野備								
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								川濱伯美仙雲都島							行眞吉清上小津木國上上	1	1						
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								廣福福福福西福引福							河上川								
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								廣福福福福西福引福							佐邊井父行戸面鮮原								
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								廣福福福福西福引福							驛免沼計								
高神島久鶴弥高陽摩金興ひろ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠								廣福福福福西福引福							神神葦合	41	26	3	9	1	0	1	



## 六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに親心一杯の御守護とお導きを賜り 日々は結構に恙なくお連れ通り下さいまして誠に有難うございます

加えて「にちくくによふほくにてわていりするどこがあしきとさらにをもうな」と教祖年祭に向かう時旬に当たりよふぼくを育てるべく夫々に身上や事情にしろしを見せて節をお与え下さいます事は誠に勿体ない極みでございます 私共は「成つて来るのが天の理」と常に親心を思索し 思召に応えられるよう日々朝夕に御礼申し上げると共に たすけ心の涵養と実践に勤め励ませて頂いております その中にも今日の吉日は此の教会にお許し下さいました御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 たすけ心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて六月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には台風接近に伴う足元の悪い中も厭わず寄り集いました道の子供達が 九〇〇八枚のおたすけお願いカードに日頃のたすけ心を込めより一層のたすかりを願う真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百三十年祭に向け三年千日と仕切つて「ひながた」の万分の一でもと歩ませて頂きたいと成人の歩みを進めさせて頂いております中に先月二十五・二十六日と別席ひのきしん団参を実施させて頂きましたところ 婦参者八百十四名の御守護を頂戴致しました 晴天の御守護も頂戴し共々に勇んでひのきしんに汗を流させて頂きました有難うございました 目標の千人には達しませんでした 来年再来年と年祭に近づく毎に増員できるような努めさせて頂く所存でございます 又年祭活動の充実を図るべく 婦人会では明日明後日と小寒様に続く会を開催し 三十日には年祭活動推進委員会により若人の集いを開催させて頂きます 更には将来の年祭を担う道の後継者育成の上からも本年のこともおちばがえりに一人でも多くの子供達に参加して貰えるよう募集に力を注いでいく所存でございます

何卒親神様には 先の見えない不安を抱える人々に一筋の光明を与えるべく たすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 親心に触れ一列兄弟の理に目覚めて よろづ互いに助け合う神人和楽の陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 第 8 6 9 期 修 養 科 募 集 要 項

### \* 修 養 科 期 間

立教176年9月1日～11月27日

### \* 教 養 掛

3ヶ月間	山 野 弘 実	(大教会准役員・上下分教会長)
1ヶ月目	西 村 彦 一	(瑞雲分教会長)
2ヶ月目	三 嶋 正 教	(笠尋分教会長)
3ヶ月目	吉 岡 貞 彦	(芦田川分教会長)

### \* 募 集 要 項

- ・ 志願者は、9月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 8月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、11月29日午前10時に解散。

## 大教会だより

### ◎ 教人資格講習会(全期)修了者

立教176年7月11日終講  
 芦 品 中村 真妃

### ◎ 教会長資格検定講習会修了者

立教176年7月19日終講  
 瑞 雲 西村 靖彦

### ◎ 三日講習会修了(6月)

芦加茂 小川 恵子  
 芦加茂 小川 裕子

### ※ お詫びと訂正

本年6月21日発行の『かさおか 第52巻第6号』7ページ「委員部長講習会開催」の記事中、15行目「三宅和子先生」は「三宅加津子先生」の誤り、同じく14ページの「各部会連絡事項」の中「育成掛」は「育成部」の誤りでした。

また、17ページ「立教百七十六年五月月次祭 祭典役割表」に掲載の「七月講話」は佐藤道孝先生から田中隆之先生に変更になりました。読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

## よりみち

6月30日、大教会で教祖130年祭「若人の集い」が開催され、自分も受講させて頂きました。今回の講師の先生は、元チエツカーズの高本禎彦先生が来られ話を聞かせてもらいました。話しの前に5分間のDVDを見て、その後講師の先生の話がありました。話しの時間は約80分位で色々と自分の入信までの話しを聞かせてもらいました。今回の内容は、自分の病氣、息子の事故、妻の病氣から次第に天理教に目覚めるまでの過程の話でした。その中で自分もやはり、自分のことではなく、周囲や家族、特に妻や子供の身上や事情に見せられた時に、改めて信仰に気がさせてもらう事が多いですが、まだまだ高本先生の様には出来ないと感じている次第です。これから年祭活動に向けても自分から神様を求めて神様の声を感じられる様に、いろんな事から気付かせてもらっていいこうと思います。

(う)